

THE KOBECCO '92 3

MARCH No. 371

月刊神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可
1992年3月1日印刷 通巻371号
1992年3月1日発行 毎月1回1日発行



● 小磯良平肖像画シリーズ「朝比奈 隆」

Blouse Collection

春を着る。エレガントな蝶になる。

優しく輝く春の日ざしは、

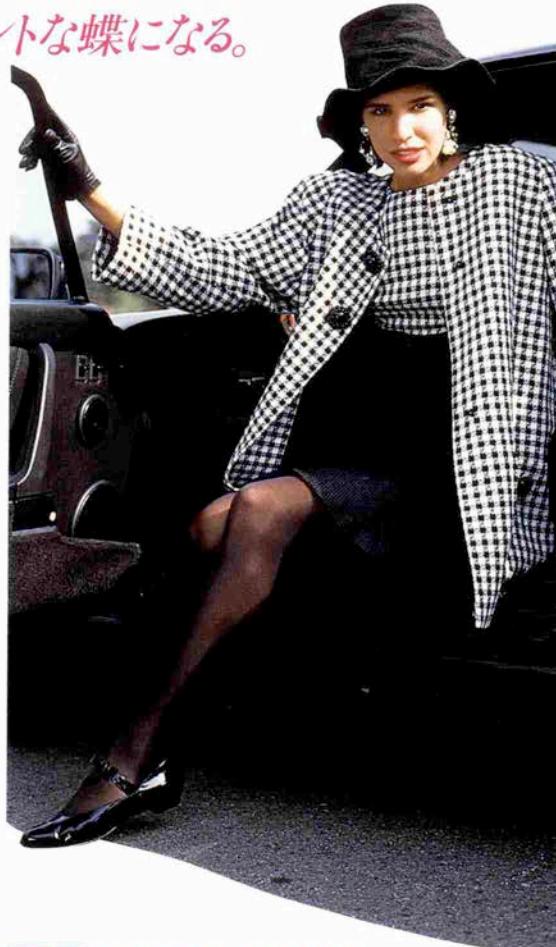
女性の心に柔らかく差しこんでいく。

重いコートを脱ぎ捨てて女性たちは、

スプリングストリートで華やかな蝶になる。

ベニヤのブラウスコレクションで、

美しく、エレガントに……。



BENIYA
KOBE OSAKA TOKYO

K O B E ● 本店 ● エルヘ店 ● ベージュ店 ● ウイング店
● さんちか店 ● イヴ・サンローラン店 ● 西神ブレンティ店
OSAKA ● 三番街店 ● ナビオ店 ● ミナミ店 ● 近鉄店
TOKYO ● 銀座店 ● 自由ヶ丘店 ● 日比谷店



ロマンチックがしたい。
芸術がしたい……
おしゃれやグルメも
オン・エア。
さんちかは
フレッシュなもぎたて情報で
あなたの春を彩ります。

santica
The New Heart of Kobe 神戸・三宮の人たち

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目10番1号 ☎078(391)0925
●定休日／第3水曜日 ●営業時間／AM10:00～PM6:00まで
(飲食店はPM9:00まで)

— 光と彩雲の詩情 —

別車博資展

3月24日(火)まで

「日本のみずゑ」と呼ぶにふさわしい軽快で淡麗な風景世界を
見事に描き出す別車博資画伯の秀作42点を展示しています。



港宿題 1973年

- 開館時間
AM10:00～PM6:00
第4水曜休館日
- 観覧料
一般 300円 (前売250円)
高校生以下100円 (前売80円)

主催／神戸・北野 White House
santica
財神戸市民文化振興財団
協賛／◎兵庫銀行文化振興財団

お問い合わせ ■ 神戸市中央区北野町27-89-6 ☎078-251-0981
主催・santica ■ 神戸市民文化振興財団



神戸・北野
White House



Sevi
1 8 3 1

優しさを伝えたい
ファミリアから
子供たちへ.....

冬の間、深い雪に閉ざされるイタリア・チロル地方の人々は、子供たちのために素朴な木のおもちゃを作りつづけてきました。

Seviはそんな自然のぬくもりを伝えるギフトの工房。

ファミリア北野坂ハウス・ノースゲートから夢をのせて.....

TEA ROOM & LITTLE SHOP

ファミリア 北野坂ハウス

神戸市中央区北野町2丁目8-1 TEL. (078) 222-3535



MORI
Pearls
Co., Ltd.

宝石デザイン・コンテストの最高峰



1992年 デビアス ダイヤモンド・インターナショナル賞受賞作品
K18, pt 漆 ダイヤモンドプレスレット
ダイヤ (67.23ct) 292個 VVS₁～VVS₂ 415g
森真珠作品

森真珠株式会社

本社／〒651神戸市中央区二宮町1丁目4-15

☎(078)241-2125㈹

2Fショールーム／☎(078)222-5881㈹ 駐車場有り
(年中無休)

オーバー店／〒650神戸市中央区北野町1丁目JR新神戸駅口
(年中無休) 3F ☎(078)262-2858㈹ 262-2859

東京支店・大阪支店

深川 和美

ISMを着る

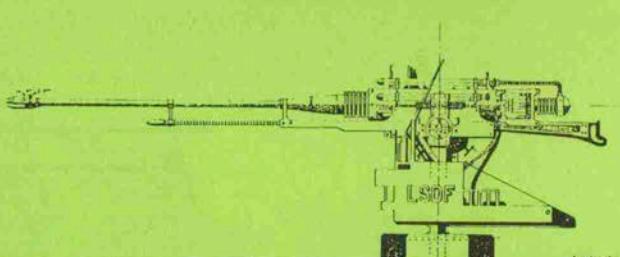
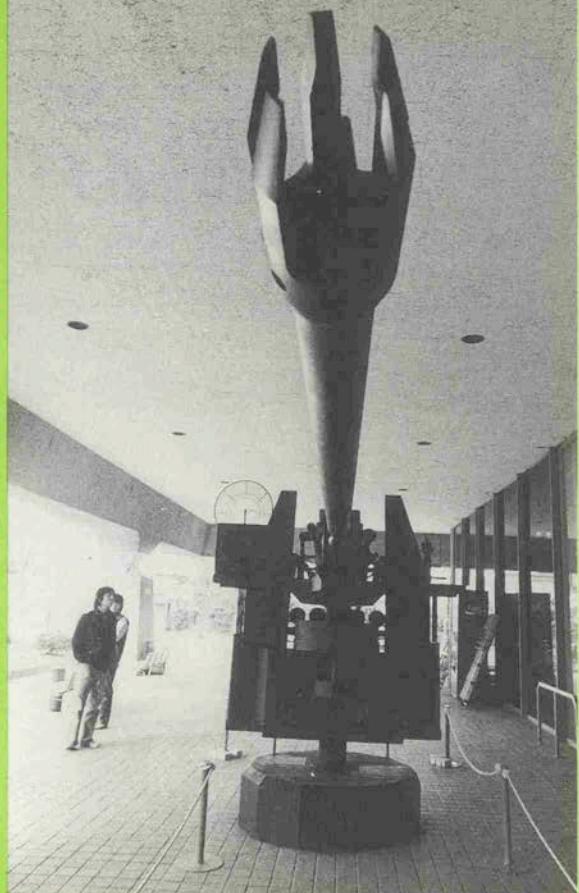
京都市立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。故河本喜介氏、常森寿子氏に師事。現在、井上和世氏に師事。関西二期会オペラスタジオ研究生。神戸フォーレ協会会員。この3月13日に“飛翔する音楽家たち”(神戸コンサート協会主催)でデビュー。3月21日、グループブリランテ・ジョイントコンサートに出演。

JR大阪駅店／06-346-7621
〒530 大阪市北区梅田3-1-1ギャラ大阪
新 神 戸 店／078-222-3637
〒650 神戸市中央区加納町2-1-15
神 戸 北 野 店／078-222-2818
〒650 神戸市中央区山本通2-9-17
神 戸 岡 本 店／078-431-1692
〒658 神戸市東灘区岡本1-4-10
芦 屋 店／0797-34-2060
〒659 芦屋市大原町28番1号ハルティ芦屋
仁 川 店／0798-51-1972
〒662 西宮市川口町2-4-13ハーベル仁川F
神 戸 垂 水 店／078-706-1558
〒655 神戸市垂水区神田町2-96林ビルF
加 古 川 店／0794-27-1431
〒675 加古川市加古川町21-8
姫 路 駅 南 店／0792-22-3351
〒670 姫路市朝霧町100モレリシガーデ姫路F
福 岡 天 神 店／092-731-5610
〒810 福岡市中央区天神2-7-18

 **ISM GROUP**
神戸市中央区布引町1-1-10
☎ (078) 222-3641

アース インターナショナル
スーツ/58,000円
撮影協力/アートラウンジKIHACHI





LSDF. (我が家の防衛対策)

これは神戸を愛する人々の雑誌です。
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れるひとにはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です。
3月号目次(31周年記念号) ●1992-371

- 表紙／故小磯良平肖像画シリーズ 朝比奈 隆
セカンドカバー／西村 功
11 第2回神戸っ子賞受賞者発表/朝比奈 隆
12 第21回ブルーメール賞部門別受賞者発表
音楽部門-中野慶理、ファッション部門-丹野最世子
舞台芸術部門-花柳芳圭次、美術部門-坪田政彦
木津文哉、文学部門-渡辺信雄
18 アートKOBE /樺 忠
20 神戸の名木/カメラ・小林政夫
31 私の意見/中西 脩
32 第21回ブルーメール賞発表・第2回神戸っ子賞発表
34 隨想二題/白石美保子、細見成男
36 連載エッセイ/「カラスになりたい」文・青木はるみ
38 私と神戸、「明日は神戸か上海か」塚田照夫
42 神戸っ子賞受賞者/朝比奈 隆の軌跡/小石忠男
49 地域文化論/水谷頼介
50 第2回神戸っ子賞選考座談会/小笠原 晚、米花 稔
石坂春生、小泉廣夫
52 第21回ブルーメール賞選考座談会/選考委員
音楽部門-出谷 啓、柴田 仁、小石忠男
ファッション部門-福富芳美、重兼 亘、藤本ハルミ
小泉美嘉子
舞台芸術部門-佐野達哉、名生昭雄、岡田美代
美術部門-赤根和生、増田 洋、乾 由明、伊藤 誠
文学部門-君本晶久、安水稔和、伊勢田史郎
63 経済ポケットジャーナル
64 キャンペーン座談会/アーバンリゾートフェア神戸'93
下村繁記、新谷瑪紀、長澤 昭、妹尾美智子、鶴田勝次
70 ひょうごwalk/「ひょうごと接づみ回廊・マンガ高橋 五
72 Oh / カラスズカ対談/花柳寿楽、横澤英雄、安寿ミラ
76 ファッションスポット
84 神戸のお嬢さん/早川奈々子、古川敦子
104 ネオモーダ・メルヘン/藤原順子
113 コーヒーブレイク
114 亀井一成のズーム・インZOO/「日本初、ラッコの人工哺育」
118 ふたたびプロフェッサーPの研究室/岡田 淳
126 話題のひろば/「カルメンを愛した伯爵婦人」
「飛松 實、地域文化功労者表彰」
128 Kobe Topics
130 KFS ニュース
132 神戸を福祉の町に/橋本 明
134 有馬歳時記
136 モダンカルチャー
138 シネマ試写室/「バグジー」淀川長治
140 神戸百店会だより
142 びっといん
144 ポケットジャーナル
147 神戸っ子俱楽部会員情報
148 るばるたーじゅ神戸/「神戸脱闇」文・有井 基
152 神戸文学賞作品発表/「香水はミス・ディオール」
文・白石美保子 え・南 和好
176 海・船・港/「戦前の日台連絡船とバナナポート」
山田早苗
目次写真/樺 忠
カメラ/米田定蔵、池田年夫、松原卓也、森田篤志
森田純三、泊 浩久

21周年記念

チャリティ ハーブ 薬草浴

4月24日(金)は

朝10時～夜1時(夜12時まで受付)

500円

21周年の感謝の気持ちをこめて、
いつもは1,900円の入浴料を
500円に！ お誘い合わせてどうぞ。

当日は500円でOK！

いつもは1,900円の入浴料がこの日だけは500円。
ただし、マッサージ、エステティックをご希望の場合は
別料金となります。(マッサージ3,500円、
オイルマッサージ6,000円、エステティック4,500円～)

チャリティにご協力ください。

当日の売上げは、市内の療護施設へ贈らせていただきます。

さらにプレゼントも！

当日お越しいただいたお客様には、優待カードをもれなく、
また抽選で素敵なプレゼントも！

- 混雑した場合は時間を限らせていただくこともあります。
- 小学生以下の子様はご遠慮ください。



女性のための6つのバスで、
爽やかな薬草浴体験
してください。

サウナ

月替わりハーブバス

ハーブサウナ

冷水超音波バス

温水パイプラバス

マッサージシャワー

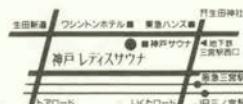


サウナとエステティック

神戸レディスサウナ

Tel.078-321-4742

神戸市中央区下山手通2-2-10・ワシントンホテル向かい
営業時間／朝10時～夜3時(通常) 年中無休



kansin street gallery 〈36〉

— 神戸を描くシリーズ —

第3回 小林 政夫 〈写真家〉



カメラ/小林政夫「夢の布引ハーブ園」



小林 政夫氏

“ときめき/パンクーかんしん”
は「共感・対話・信頼」を企業
理念として、地域の文化・芸
術の育成に努めてあります。

この“かんしんストリート
ギャラリー”も芸術の香りをほ
のかに漂わせたアートスポット
として、本年は、神戸を描
くシリーズと題し、神戸の街
角の風景を描いた作品を紹介
してゆきます。



生田新道に面したストリートギャラリー



関西信用金庫

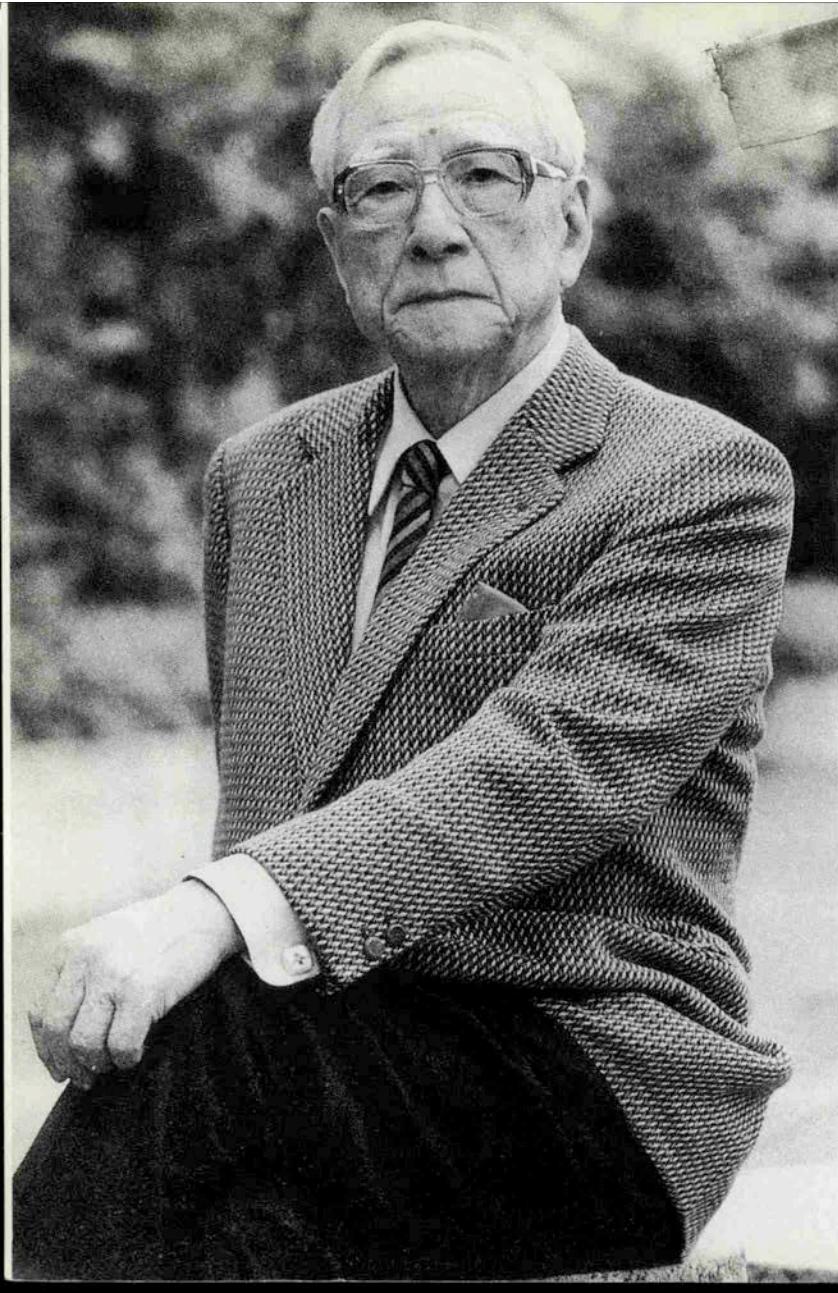
神戸市中央区下山手通2丁目12-3 TEL650
PHONE (078) 332-5151 Fax (078) 333-9874

春がきた
夜にきた



タジマ

神奈川町2丁目 TEL. 03(351)5761代



“神戸”が、私の音楽学校 朝比奈 隆

（大阪フィルハーモニー交響楽団
音楽総監督・常任指揮者）

大ファイル結成が昭和35年。N響の前身を指揮したのが昭和14年なので、既に50年以上タクトを振り続けている。京大法学部卒業後阪急電鉄に勤める。音楽との関わりは「神戸には外国の音楽家達が沢山居て、彼達に教わりました。異人館、言わば神戸が音楽学校でした」。東京生まれだが昭和15年から神戸に住む。「神戸が好きだから東京へは帰りませんよ。竹中郁さん、小磯良平さんと知り合い、彼達に代表されるオーブンで分け隔てのない神戸人の気質に魅了されました。長峰山にお墓も買いましたし」カラヤンが亡くなり世界最長老（84歳）の指揮者となつたが「長く続け、力一杯する事だけです」淀みなく話される言葉は、音楽を奏でるようにやわらかく又力強い響きであった。



創意あふれる解釈に基く演奏

中野慶理

（ピアニスト）

カメラ・米田定蔵

「まだまだ、若輩の身で、こんな賞をいただけるなんて、本当に幸せです」と語る中野さん。話し方からも、非常に勉強熱心な方だということがわかる。昨年は、NHK FM「土曜リサイタル」出演の他、様々な演奏会で絶賛を受けられた。今回の受賞に関して、「これから活動へのパフォーマンスのようなものだと考えます。チャンスをいただいたという気持ちで、これを新たな出発点として、自己審査をより厳しくし、より良い演奏を目指していきたい」と語る。今年、11月には神戸での演奏会も予定されており、今後の活躍が期待される逸材である。豊中市出身、三田市在住



中日友好ファッショントレンドで一層充実

丹野最世子

(デザイナー)

カメラ・米田定蔵

北野異人館俱楽部のアトリエは今年で14年を迎える。アトリエいっぱいに並べられた作品に囲まれた丹野さんは、大きな水玉にバラの模様の半袖ブラウスが華やかさを一層ひきたてている。

神戸ドレスメーカー女学院デザイン科卒。多くのオリジナルコレクションを開催。

「精一杯服作りをしているので、大変うれしい! シルクの国というイメージはありましたが、中国は初めてだったのでどんな色が合うか等実際見てイメージを広げました。ハワイ名もあるほどのハワイ好き。「これまでのトロピカルなものに加えて、今から時代の温かい手作りの服作りを続けていきたい。」と語ってくれた。



教育において地域文化に貢献

（邦舞家）

カメラ・米田定蔵

六歳で日舞の道に入る。15歳で花柳芳次師の内弟子となり、20歳で名取、花柳芳圭次の苗名を許される。昭和37年に「圭柳会」を結成、それから現在までに門下生より25名の名取を出す。昭和62年、兵庫県舞踊文化協会企画理事就任。「私が受賞するなんて心苦しい、それより日舞が対象にされたことがうれしい」という。自分が出演するより弟子が舞台に立つ方がうれしいとも。今、神戸を中心に4つの稽古場を開き、9歳から94歳までの門下生を教える。平成2年、長女香代さんが名取、将来が楽しみ、と、ますます指導にも熱が入る。日曜には必ず教会に足を運ぶ、堅実なクリスチヤンの一面も。





“色”の中の幻想

（絵画）

カメラ・米田定蔵

一枚の紙の上に美しくやさしい“色”的対比がある。形はシンプルな四角形。よく見ると単色と思われた“色”の中にいろんな色の波模様が見られた。シルクスクリーンの版をおこし、一度印刷をする。半年放つておいた後、シンナーで拭き取ると、紙にしみ込んだ“色”的みが残る。片方の正方形にはまた改たに色をのせる。様々な“色”を含んだ“紙”的芸術だ。ばかみたいなところに結構、時間をかけているんですよ。でも、それがでてくるんです。一見したら、わからないのだけど、人に与えるところは違うんじゃないですか。」作者の“息づかい、呼吸、細胞、血の流れ”が“色”の中に脈打っている。47年姫路生まれ。大阪芸術大学卒業。現在、大阪芸術大学で教鞭をとる。



モノクロの世界で 木津文哉

（絵画）

カメラ・池田年夫

「モノクロだと今までに描けなかつたものが描けるんです。『手』とか『鳩』とか『布』とか。』色を使わない様になつて4年。木炭やアクリルで描いたり、銀箔や紙ヤスリを貼り付けていく。色のない世界だが木炭の薄め具合によつても色目は豊富だ。』描写するのが好きなんです。あくまで、表面にこだわつていていたい。』自分の中の世界をストレートに表現し、確認する。』でつかい布の作品を見せると、見る人はいろんなものを想像します。布らしく描こうとする程、別ものに見えて……。』見る人と絵の意外な接点を見出した。色の必然性を確かめながら、自由に心地よく、内面の世界を描き続けている。』58年静岡県生まれ、東京芸術大学卒業。現在、兵庫教育大学で教鞭をとる。



渡辺信雄

（詩人）

カメラ・池田年夫

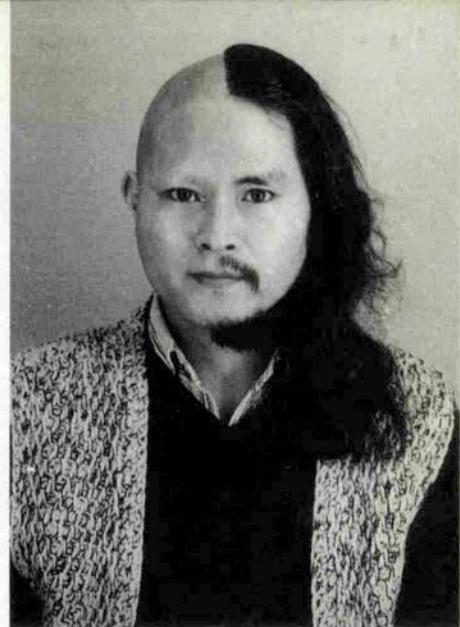
50年兵庫県芦粟郡生まれの渡辺信雄氏。大学時代、清水和や清水哲男の詩に衝撃を受ける。学生運動の嵐が全国に波及、その渦中で、この詩人のもつ感性は、いやがうえにもその鋭さを増し、詩人渡辺信雄の詩魂をつき動かす。無力さの自覚が、言葉をさらに鋭敏なものにした。そしてそれが第一詩集『冬の日の私信』へと結集する。詩人の目差しは拡がり、人間と自然のありようをうたう。「自然を破壊して生きてゆかねばならない人間。自然がなくては生きていけない人間なのに、矛盾してますね」と、自宅近くの公園の入口でボツリ。『水の中のビアノ』は、詩人のそういう熱い思いが詩の行間から浮かびあがっている。『幻想時計』『輪』に所属。

（松ヶ丘公園にて）

海を渡つた榎忠

「忠さん」の名で親しまれている榎忠は、けつたいで型破りな美術家として神戸や関西の地ではすでに伝説的な名声をかちえている。彼こそ前衛美術家の名にふさわしい者であり、今では流行らなくなってしまったこの前衛美術家を二十年以上も続けている貴重な存在である。前衛美術家というと、素人にはよく分からぬ難解な美術をする人と勘違いする人も最近はいるようだが、前衛美術とは美術と日常生活との境界にある訳の分からぬものであり、名付け様のないものをとりあえずそのように呼んでいるというだけのことなのだ。彼は美術に化身し土足で日常世界に踏み込みそれを擾乱する。それはお祭りの鬼のようなものであり、今では効力を失つてしまつた鬼の代わりにとりあえずは前衛美術という仮面を破つてゐるのである。

東門筋の「バー・ローズ・チュー」も、花銀駐車場の「原子爆弾」も、春日の道商店街の喫茶すずやの「T C D D プロパティショ」も、そして宅地開



ART
C enoki
忠

発の進む学園都市で五百萬年前の地層をむき出して見せた「地球の皮を剥ぐ」も、すべて今は形としてしか残っていない原初のお祭りの空間を復活しようとしたものである。

優しい爆薬榎忠を神戸の人だけに楽しませておくのはもつたいないと思つて、ぼくはアメリカ、メキシコを巡回する「F A R T I S T S (七人の美術家たち)」の展覧会に密かに仕掛けた。なんとそこに彼は、百万発の使用済みの薬莢を持ち込んだ。時はあたかも湾岸戦争の直後であり、自衛隊の海外派遣が問題になつてゐる時であつた。もちろん榎忠は海外でも話題を呼び、日本通で辛口の批評で知られる美術批評家ジャネット・コブラスは、言葉の本来の意味における前衛美術家としての彼の作品を賞賛した。今年8月半ばに名古屋市美術館でこの展覧会の帰国展を開催するので、榎忠のファンはぜひ名古屋に来てほしい。



chu Enoki